

タイから結城市に水害義援金

タイのメーサイ病院から医療現場の視察に来日した看護師2人が2日、結城市役所の前場文夫市長を表敬訪問し、義援金73023パーツ（日本円で約24万円）を手渡しました。前場市長は「有効に使わせていただきたい」と話し、被害の大きかった世帯にお見舞金として配布するなど、災害復興に役立てたいとしています。

来日した看護師2人は、ともに城西病院と友好病院の関係を結ぶメーサイ病院に勤務する透析センターのポンパン・ソムヨンさん（通称ボンさん）と救急部のサイサモン・ペンパンさん（通称エーさん）です。

平成27年9月10日に茨城県など関東一円に大きな被害を出した台風18号は、結城市にも大きな被害をもたらしました。鬼怒川の逸水などにより、約12000人の市民に避難指示を出し、約1300人が避難。床上浸水50棟、床下浸水147棟、その他被害122件、車輛被害46台の爪痕を残し、10月に入っても2世帯5人が未だに避難をしている状況といえます。

義援金は、テレビなどでこの災害の状況を知った結城市と姉妹都市を結ぶメーサイ市、メーサイ病院、結城一高などと教師や生徒の交流を行っているメーサイ高校で集めました。

2人は、約1カ月間の予定で城西病院などで医療視察を行うため、平成27年10月1日に来日しました。その際、



義援金を託され、前場市長の表敬訪問の際に贈りました。

メーサイ市では、平成26年9月6日にメコン河の支流、サイ川が氾濫し、10年に1度という洪水に見舞われました。この時、城西病院など城西グループと結城市、結城市議会は、計50万円の災害復興支援金を贈っています。

また、中国人の王歆歆さんも約1カ月の予定で介護老人保健施設「すばる」などで介護視察を行う予定で、前場市長を表敬訪問しました。

平成27年10月2日

メーサイ病院の看護師2人が前場市長に
中国の王さんも介護視察で来日



ケーブルテレビの取材を受けるタイの看護師



エーさん（左）とボンさん



王さん